

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2016 年 6 月

「クリスチャン家族」「幸福な生涯」「イエスの説教（預言）」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「クリスチャン家族」

4

聖書の教え

朝のマナ

「幸福な生涯」

7

今日のわたしの生涯

現代の真理

「イエスの説教(預言)」

38

七つの封印と生ける神の印

力を得るための食事

「新生姜の炊き込みご飯」

44

お話コーナー

「博士たちの訪問(下)」

46

イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2016年5月31日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Dreamstime on front cover;

HighRes on pages 8, 52, Joe Maniscalco

on back cover.

Printed in Japan

神のいのちに接触する

教育の最高の働きは知識だけを与えることではなくて、それは心と心、魂と魂とがふれ合うことによって受けられる生きた力をさずけることである。いのちを生ずることができるのはいのちだけである。だから神のいのちに三年の間日々接触していた彼らの特権はどんなに大きかったことだろう。この神のいのちからいのちを与えるあらゆる衝動が流れ出て世の祝福となったのである。愛された弟子ヨハネはほかのすべての仲間たちにまぎって、このすばらしいいのちの力に屈服した。彼はこう言っている。「このいのちが現れたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし、かつ、あなたがたに告げ知らせるのである」「わたしたちすべての者は、その満ち満ちているものの中から受けて、めぐみにめぐみを加えられた」(ヨハネ第一 1:2, 1:16) (各時代の希望上巻 310)

キリストの教えは心の内部の自信と経験の表現であったが、キリストについて学ぶ者はキリストのような教師となる。神のみことばが、そのみことばによってきよめられた人によって語られるとき、それはいのちを与える力を持っていて、聞く人をひきつけ、みことばこそ生きた現実であることを確信させる。人が真理を愛してこれを受け入れるとき、それはその人の信念のある態度と声の調子にあらわれる。彼は他の人々がキリストを知ることによって彼とまじわることができるように、いのちのみことばについて自分が見、聞き、手でさわったところを知らせる。(各時代の希望上巻 162)

心とからだと魂を神にささげる者はだれでも体力と知力の新しい賜物をたえず受けるであろう。天の尽きることのない補給は彼らの思いのままに与えられる。キリストは彼らにご自身の霊の息吹き、すなわちご自身のいのちをお与えになる。聖霊は心と思いと働くためにその最高の能力をそそがれる。神の恵みは彼らの能力を幾倍にも大きくし、神の性質のあらゆる完全さが救霊の働きにおいて彼らの助けとして与えられる。キリストとの協力によって、彼らはキリストのうちにあって完全であり、人間的な弱さのうちにあっても全能者の行為をなすことができる。(各時代の希望下巻 377)

わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。(ヨハネ 6:63)

15章 クリスマン家族

アダムとエバを創造された後に、神は彼らを夫と妻として結合させ、彼らを祝福して、それから次のように告げられました、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ」（創世記 1:28）。地にご自分のみかたちに創造された存在が居住し、ご自分に栄光をもたらす家族を構成し、そして天のさらに大きな家族のメンバーとなることが神のご目的でした（イザヤ 45:18; エペソ 3:14, 15）。神の本来のご目的が罪の結果としてわきにそらされたとはいえ、最終的な成就是確かです（ローマ 8:28; 黙示録 21:3, 5）。

家族は社会の根、もしくは中心的な核です。クリスマン家族とは、神が礼拝の最高の対象として認められている家族です。このお方はそのような家族の頭であり、保護者であり、導き手であり、指導者です。クリスマン家族は地上における神の教会の最も小さい有機単位です（マタイ 18:20）。クリスマン家族はまた、一人ひとりが互いに知識を分かち合い、学ぶ教師であり生徒でもある学校です。神のみ言葉は、自然という書物と共に、家族学校における教育の主たる源であるべきです。家族という会社の目的は、その生徒をこの地上における有用性のために、また上級学校へ向けた卒業のために準備することであるべきです（申命記 6:4-9; 詩篇 128:1-6）。

家族における回復の特別な働きがキリストの再臨前に起こることが預言されています（マラキ 4:5, 6）。

夫また父親

クリスマンの夫は家族の父としてまた祭司として、家族の保護者であり、指導者であり、導き手であり、提供者です（創世記 3:19; コリント第一 11:3）。この役割は神によって彼に与えられました。彼は自分の家族の霊的、精神的、そして身体的幸福に対して責任があります（エペソ 6:4; 5:28-31, 33; テモテ第一 5:8; ペテロ第一 3:7）。

自分の妻と協力して、彼は子供たちに神を愛し従うことを教え、この世の人生

及び来るべき人生において役立つものとなるように、聖書の中に与えられている教えに従って彼らを訓練すべきです。家族の中の祭司として、父親は自分の子供たちの宗教的な指導と訓練のために最高の責任を負っています。彼はまた朝夕の家族礼拝を執り行うべき人です（創世記 18:19; 35:2-4; ヨシヤ 24:15; コロサイ 3:21）。

妻また母親

クリスチャンの妻は、母親として、家族の中の子供たちが特に幼少の頃の主たる教師です。彼女には神のみ言葉の中に与えられている指示にしたがって彼らを訓練し、教育する重大な責任があります。自分の夫と共に、彼女には彼らの霊的、精神的、身体的幸福に対する責任があります。自分の子供たちのうちに現世と永遠のために神のかたちに従って品性を形成することは彼女の責任の一環です。父親は家族の帯（ハウスバンド）であり、一方母親は家庭を作る者（ホームメーカー）です（箴言 31:10-31; エペソ 5:22-24, 33; テサロニケ第一 5:23; テモテ第一 5:4; テトス 2:4, 5）。

家族における子供たち

子供たちは主の嗣業です（詩篇 127:3-5; 箴言 17:6）。彼らは社会と地上の神の教会の将来です。彼らは天上の主の家族の一員となるために、また地上にいる間社会の有用な一員となるために、父親と母親によって訓練され、教育される目的で彼らに委託されたものです（詩篇 144:12; イザヤ 8:18）。子供たちは主にあってふさわしく自分の両親を愛し、尊び、敬い、従うことを学ばなければなりません（出エジプト記 20:12）。彼らはまた神を愛し、従い、牧師、教師、統治者、またその他神が権威を授けてこられたすべての人々を敬うことを学ぶべきです。子供たちはまたこの地上で神の御国を前進させ、キリストの再臨を早めるのを助けるような商売もしくは（及び）職業を学ぶことにより、神と共労者になるために教育を受け、自らを準備するよう奨励されるべきです（レビ記 19:32; 列王記下 2:23, 24; 詩篇 78:2-7; 箴言 22:6; エペソ 6:1-3; コロサイ 3:20）。

「神は人をご自分の栄光のために創造された。それはテストと試験の後に、人類家族が天の家族と一つになるためであった。もし人類家族がご自分のすべての言葉に従順であることを示すならば、天の欠員を人類家族で再び埋めることが神のご目的であった。アダムは、忠実な天使たちのように従順であるか、もしくは

不従順であるかを調べるためにテストされなければならなかった」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 1082)。

「初期のころ、父親は家族の統治者であり、祭司であって、子供たちが自分の家族をもった後までも、彼らの上に権威をふるった。彼の子孫は、彼を宗教上ならびに、政治上の首長として尊ぶように教えられた。この制度は神の知識を保存させるものであったから、アブラハムは、この家長制度の組織を永続させようと努力した。各地に広く行きわたって、深く根をおろした偶像礼拝に対する防壁を築くために、家族の全員をまとめることが必要であった。罪惡に親しむならば、知らず知らずのうちに原則を犯すようになることを、アブラハムは知っていたので、彼の天幕の住人たちが、異教徒と交わり、偶像礼拝の習慣を見ることがないように、あらゆる方法によって彼らを守ろうとした。彼は、偽りの宗教のどんな形のものも閉め出し、真の礼拝の対象である生きた神の栄光と威嚴を人々の心に深く印象づけようと最大の注意を払ったのである」(人類のあけぼの上巻 144)。

「親や教師がこの〔自分たちの子供を教育する〕働きをなすためには、彼ら自身、子供の行くべき「道」を理解していなければならない。この中には単なる書物の知識を持つ以上のことが含まれている。それは善なるもの、徳のあるもの、義なるもの、聖なるものをみな取り入れる。それは節制、信心、兄弟のような親切、神への愛と互いへの愛を実践することを含んでいる。この目標に到達するために、子供たちの身体的、精神的、道徳的、また宗教的教育に注目しなければならない」(教会への証 3 巻 131, 132)。

「幼少時における子供の教育はどのように重要視してもしすぎるということはない。乳児期や小児期に学んだ教訓や形成した習慣は、その後施されるいかなる教育訓練よりも品性の形成とその生涯を支配するのに関係がある」(ミストリー・オブ・ヒーリング 350)。

「母親たちは多くの事柄について知識を得ているかもしれないが、もし個人的な救い主としてのキリストの知識を持っていないならば、彼女たちは重要不可欠な知識を習得していないのである。もしキリストが家庭のうちにいらっしゃるなら、もし母親がご自分を自分の勧告者としているならば、彼らは自分の子供たちをまさに乳児の時から真の宗教の諸原則のうちに教育するようになる」(チャイルド・ガイド 472)。

「世に提示することのできるキリスト教の力の最大の証拠は、よく秩序立てられ、規律の取れた家族である」(教会への証 4 巻 304)。

今日のわたしの生涯

My Life Today



6月「幸福な生涯」

あなたの若い日に あなたの造り主を覚えよ

「あなたの若い日にあなたの造り主を覚えよ。悪しき日が来たり、年が寄って『わたしにはなんの楽しみもない』と言うようにならない前に」(伝道の書 12:1)

クリスチャンの生涯の美しさを言葉で描くことができたなら良いのにとわたしは思う。自然の法則と神の律法に支配された人生の朝に始まって、クリスチャンは毎に天の家郷に向かって近く引き寄せられつつ、堅実に前進し、上に向かって進む。その家郷には生命の冠と、「これを受ける者のほかだれも知らない」新しい名が彼を待っている。彼はたえず幸福に聖潔に有用さにおいて成長する。一年ごとの進歩は前年のそれにまさっている。

神は、上るためのはしご、すなわち地から天へと達するはしごを青年に与えてこられた。このはしごの上には神がおられ、一段一段にこのお方の栄光の明るい光が降りそそいでいる。神は上っている人々を眺めつつ、握る手がゆるんだり、足がよろめくと助けを送る備えをしておられる。しかり、喜びにみちた言葉で、辛抱強くはしごを上る人はだれひとり天の都に入るのに失敗することはないと告げなさい。(ユース・インストラクター 1902 年 6 月 26 日)

ヤコブが幻で見たはしごの上を上ったり下りたりしている神の御使は、一番高い天へまでも上ろうとする一人一人の魂を助けてくれる。彼らは神の民を守り一步一步どのように歩むかを見守っている。輝く道を上る者には報いがある。彼らは主の喜びに入るのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1884 年 8 月 19 日)

幼い時の敬神はそれを保つ者に、人生を幸福にするすべての完全な喜びを保証する。……寿命が尽きるまで待つ人々は、神を求める前にほとんど人生が終ってしまい、純潔で高められた幸福な生涯、すなわち現世において追求しても手に入れることのできない幸福を失う。神を長い間知ってきた人々、自分たちの若い時から、自分たちの幸福を天の清い泉からくみ出していた人々は、神の家族に加わる準備ができています。(ユース・インストラクター 1900 年 10 月 25 日)

内におられるキリストは幸福の源

「その聖なるみ名を誇れ。どうか主を求める者の心が喜ぶように。」(歴代志上 16:10)

多くの人が……自分が持っていないものを切望する。彼らは糧にならないもののために金銭を費やし、満足することのできないもののために労している。飢え渴いている魂は、このような満足感を覚えない快樂にあずかるかぎり、飢え渴き続ける。ああ、そのような人がみな、「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい」とのイエスのみ声を聞くとよいのだが。生ける水を飲む人はもう渴くことはない。……生命の源泉であるキリストは平安と幸福の泉である。……

青年たちに、主のみ名を、その大いなる優しさ、愛情にみちた憐れみ、優しい同情のゆえにほめたたえさせなさい。彼らは、秩序のある生活と信心深い会話を通じて主の恵みをあらわすことにより、このお方のみ名をほめたたえることができる。そして彼らがこれをするとき、性質は和らげられ、短気が消え去る。(ユース・インストラクター 1902 年 11 月 6 日)

キリストを常客として心に宿している人は最も幸福な人である。信心が原則となっている家庭は最も祝福された家庭である。……キリストの平安と天来の臨在がある仕事場では、働き人は最も信頼でき、最も忠実でまた有能である。神への畏れと愛が見られる。(手紙 48、1897 年)

イエスがおられなくては、この世には慰めも幸福もない。このお方を友とし、また救い主として認めよう。……このお方の内には計り知れない魅力がある。ああ、わたしたちがみな、イエスと共に永遠にわたって支配することを思っ、この短い猶予期間の間を生きることができるよう。(ユース・インストラクター 1903 年 2 月 12 日)

信仰によってキリストが心に内住しておられるなら……あなたは幸福で感謝と喜びに満ちているであろう。(同上 1892 年 10 月 13 日)

キリストから離れては真の喜びはない

「主の喜びに入れ」(マタイ 25:23 英語訳)

ある人々が落ちつかないのは、唯一まことの幸福の源へ行かないからである。彼らはいつもキリストの内にだけ見出されるその喜びを、キリストの外で見出そうとしている。このお方の内に、くじかれる希望はない。ああ、祈りという尊い特権はなんとおぼろにされていることであろう。……祈りはクリスチャンの力である。一人のとき、その人は一人ではない。彼は「見よ、わたしは……いつもあなたがたと共にいるのである」と言われたお方のご臨在を感じるのである。

青年は、自分たちが持っていないそのもの、すなわち宗教を必要としている。その代りになるものは何もない。(ビュー・アンド・ヘルド 1880 年 3 月 11 日)

クリスチャンの希望こそまさに必要とされているものである。宗教は信者に、慰め主、真の幸福の泉であるお方へと導く確かな案内書であることを立証する。(ユース・インストラクター 1907 年 1 月 1 日)

キリストの喜び以外に真の喜びはない。人がキリストなしで得ることができると考える想像上の幸福はすべて灰のような期待はずれであることがわかる。無信仰な人が幸福な人であり得ると一瞬たりとも思ってはならない。(手紙 15、1899 年)

宗教なくしてはだれも人生を真に楽しむことはできない。神への愛はあらゆる嗜好と望みを純潔に、また高尚にし、あらゆる愛情を強め、あらゆる価値ある喜びを輝かせる。人がすべて真実なこと、良いこと、美しいことを正しく認識し喜ぶことができるようにする。(グッド・ヘルス 1882 年 8 月)

あなたは真のクリスチャンにきわだった快活さ、神への聖なる幸福な信頼、神の摂理への従順がつねにあり、それが魂への慰めであることを見出すであろう。(教会への証 3 巻 377)

神の愛とすべてを支配するみ摂理を信じる信仰は、不安や思いわずらいという重荷を軽くする。この信仰は置かれた状態にかかわらず喜びと満足感で心を満たす。宗教は直接健康を増進し、生命を長らえさせ、その祝福すべてについてわたしたちの喜びを高める。魂に決して減ずることのない幸福の泉を開く。(ビュー・アンド・ヘルド 1884 年 8 月 19 日)

知恵と悟りは幸福をもたらす

「知恵を求めて得る人、悟りを得る人はさいわいである。」(箴言 3:13)

ダビデに油を注ぐ式は……若者に大きな運命が待っていることを暗示した。

……

彼は、高い地位につくことになったが、静かに自分の職業を続け、主が、ご自身の時と方法によってご自分の計画を進められるのを待つて満足していた。羊飼いの少年は、油を注がれる前と同じけんそんな気持ちで、山にもどって、以前と同様に羊の群れをやさしく見守り保護した。しかし、彼は新しく靈感を受けて曲を作り、たて琴をかなでた。彼の前には、豊かで種々さまざまの美に満ちたけしきが展開された。……

青春の美と活気に満ちていたダビデは、地の高貴な人たちと同じ高い地位につく準備をしていた。彼の才能は、神からの尊い賜物として、与え主であられる神の栄光を賛美するために用いられた。彼の熟考と瞑想の機会は、彼の知恵と敬神の念をいよいよ豊かにし、彼を神と天使たちから愛される者にした。彼は自分の創造主の完全さを熟考することによって、神のことをはっきりと理解することができたのである。不明瞭な問題は明らかにされ、困難なことは平易にされ、混乱の中に調和が見いだされていき、新しい光が与えられるたびに、彼は歓喜の声をあげ、神と贖い主の栄光に対して美しい献身の歌をうたった。彼を感動させた愛、彼を悩ました悲哀、彼の得た勝利などは、みな、彼の活発な心の主題であった。そして、彼が自分の生涯のすべての摂理の中に、神の愛をながめるとき、彼の心は熱烈な賛美の感謝に脈打ち、彼の口からはさらに美しい旋律が流れ、たて琴は歓喜にあふれてかきならされた。こうして、羊飼いの少年は、力から力へ、知識から知識へと進んでいった。それは、神の霊が彼と共におられたからである。(人類のあけぼの下巻 313, 315)

聖書は真の幸福への道を示す

「わたしは、もろもろのたからを喜ぶように、あなたのあかしの道を喜びます。……わたしはあなたの定めを喜び、あなたのみ言葉を忘れません。」(詩篇 119:14-16)

聖書は、わたしたちの見えるところに天の測り知れない富と無限の宝を差し出す。人の最も強い欲求は自分自身の幸福を求めるようかりたてるが、聖書はこの願望を認め、人が真の幸福を得ようと努力するとき、全天がその人と団結することをわたしたちに示す。それはキリストの平安が人に与えられる条件を明らかにする。聖書は、涙も乏しさも知ることのない永遠に幸福で日光の満ちた家庭を描写する。(手紙 28,1888 年)

この祝福に満ちた書は、あなたに正直であるべきこと、万事における節制、儉約、勤勉、誠実、またまっすぐであるべきことを教える。聖書の勧告に聞き従うとき、それはあなたに品性を純潔にするために絶えず上に向かって導く感化力、罪から離れて義の道へ導く感化力をあなたに与え、あなたは忠実な青年の仲間となる。

そのような生涯が喜びのない人生であろうか。とんでもない。このような人生は慰めに満ち、喜びにあふれる。なぜならあなたは天国をあなたの人生に持ち込み、平安をあなたの魂に持ち込んで、「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせる」というあかしをしているからである。……

青年がみな、その若々しい心を神に捧げることが、どれほど尊いことであるかを悟ることができたならよいのにとわたしは願う。御使たちは神を畏れ、神を愛する青年の歩みをどれほど愛情を込めて守っていることであろうか。イエスはこの青年たちの名前を知っておられる。そして彼らの模範は他の青年たちが正しいことを行うのを助けているのである。警告と励ましのみ言葉、神のみ約束という尊い真珠の宝庫を心と思いの中に隠し持ち、折りにふれてそこから引き出すことのできる青年は、光の生きた通路である。彼はすべての光の源であるお方と交わりを持っている。義の太陽はその人の周りにいるすべての人に光の輝きを発しながら、その人の魂の中にご自分の光であるいやす光線を送り込まれる。(ユース・インストラクター 1887 年 8 月 3 日)

世界で最も幸福な人々

「主をおのが神とする民はさいわいです。」(詩篇 144:15)

あなたが自分の行うすべてのことに幸福と平安を見出したいのなら、あなたはすべてのことを神の栄光のためにしなければならない。あなたが自分の心に平安を持ちたいのなら、キリストの生涯を熱心に見習うよう努力しなければならない。そうすれば気を引きたてたり、あるいは誇りにふけることや世の軽薄さを楽しむを求めたりする必要はなくなる。あなたは、正しい行いにある平静さと幸福を得ようになる。それは誤った進路をとっている時には決して実感できないものである。イエスは幼年期、少年時代、青年時代を通じて人間の性質をとられたが、それは、いかにすべての人に共鳴するかを知り、すべての子供と青年に模範を残すためであった。このお方は子供のもつ弱さや誘惑を知っておられる。このお方はその愛のうちに、ご自分を信頼する魂のために喜びと楽しみをの泉を開かれた。キリストをあがめ、その模範に従おうと努力することによって、子供や青年は真に幸福になることができる。魂を救うという大いなる計画において、イエス・キリストと共に働くことに対する自分の責任を、彼らは感じることができる。もしも青年が神のみ前に自分たちの責任を感じるなら、彼らは、卑劣で利己的で不純な一切のものに超越する。そのような人にとって命は重要性に満ちている。彼らは、自分たちが生きる目的として偉大で栄光にみちたものを持っていることを悟る。これは青年たちが、自分たちの神聖な型であるお方と同様に、真剣に快活になり、またどのような人生の重荷、失望、困難の下にあっても強くなるような感化力を及ぼす。……わたしはあなたがたに絶えず神に対する思慮深い責任感を培うようにと懇願する。自分が神の是認できる事柄を行っているという意識は、あなたを神の力のうちに強くする。そして型であるお方を見習うことによって、この方のように、知恵に満ち、神と人から愛されるようになる。(ユース・インストラクター 1873 年 9 月)

あらゆることにおいて、神を最初、最後、そして最上とする者は世にあって最も幸福な人々である。(レヴィー・アノド・ヘラルド 1884 年 8 月 19 日)

従順

「主はこのすべての定めを行えと、われわれに命じられた。これはわれわれの神、主を恐れて、われわれが、つねにさいわいであり、また今日のように、主がわれわれを守って命を保たせるためである。もしわれわれが……このすべての命令を……守って行うならば、それはわれわれの義となるであろう。」(申命記 6:24, 25)

幸福は正しい方法で、また正しい源から求めなければならない。ある人々は、罪深い快樂の耽溺の道や、人を惑わせる世的な魅力の中に、確かに幸福を見出すことができると考えている。そしてまたある人々は幸福を見つけるためだと思って、肉体的、道徳的義務を犠牲にし、魂も体も失ってしまう。他の人々は自分たちの幸福を不自然な食欲にふけることに求め、嗜好を満足させることが、健康と命よりも望ましいことだと考える。多くの人が性的な情欲に魅了され、欲を満足させるために体力、知力、道徳力を犠牲にする。彼らは自ら早死をもたらし、審判の時に自殺者として判決を受ける。

身体の法則と道徳律に対する不従順と違反の道で、見出されるこのことが望ましい幸福であろうか。キリストの生涯は、幸福の真の源と、どのようにしてそれに達するかを指し示している。……もしも彼らが本当に幸福でありたいのなら、義務として与えられた自分の持ち場で、進んでゆだねられた働きを忠実にやり、自分の心と生活を完全な型であるお方に一致させるよう努めるべきである。(ユース・インストラクター 1872 年 4 月)

男女、子供の命と幸福、健康と喜びは、従順にかかっている。従順はこの世と来世の幸福のためである。(原稿 36、1900 年)

わたしたちは唯一のまことの神以上に確かな案内書をどこで見つけることができるであろうか。……永遠なるお方が導いてくださる道以外にどこにもっと安全な道があるというのであろうか。このお方に従うとき、わたしたちは安っぽい、からまったやぶだらけの道を歩むことはない。(手紙 48、1897 年)

神への従順の道は徳と健康と幸福の道である。(レヴェ・アフト・ヘラルド 1883 年 10 月 16 日)

神のみ旨を行うことを喜ぶ

「預言がなければ民はわがままにふるまう、しかし律法を守る者はさいわいである。」(箴言 29:18)

神を愛する者にとって、このお方の戒めを守ることと、このお方の目にかなうことを行うことは最高の喜びとなる。……

詩篇記者は「主のおきては完全であ」と言う。エホバの律法の単純さ、包括さ、完全さは、なんと素晴らしいことであろう。この律法は非常に簡潔なので、すべての教えをたやすく記憶することができ、その上神のみ旨全体を表現し、その表面上の行動だけではなく、思いと意図、心の願いと感情も認識するほどに遠大である。人間の法律がこうすることはできない。ただ外に現れた行動に対処するだけである。……神の律法は魂を通してわきあがっても外面的な行動に表現されたことのなかった嫉妬、妬み、憎しみ、悪意、仕返し、強い欲望、野望に注目する。……そしてこれらの罪深い感情は、「神がすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれる」その日に責任を問われる。……

神の律法の中に神秘はない。すべての者が具体的に表現されている大いなる真理を悟ることができる。最も知力の弱い者もこの指針をはっきりと理解することができる。……

律法への服従は自分の救いのためばかりではなく、わたしたち自身の幸福とわたしたちが接するすべての人の幸福にとっても不可欠である。(サイン・オブ・タイムズ 1886年4月15日)

人の幸福は常に神の律法によって守られなければならない。……律法は、神がご自分のぶどう畑の周りに巡らした垣根である。従う者はこの律法によって恵から守られる。(同上 1900年6月13日)

わたしたちは人生を望ましいものにするすべてのことを神に負っている。そしてこのお方はわたしたちに心からの愛情と生涯の従順を求められる。もしも従うなら、このお方の教えは家庭生活に幸福をもたらし、個人個人に幸福をもたらす。(手紙 23 a 1893年)

正しい行いは、平安と、聖なる喜びをもたらす。(レビュー・アンド・ヘラルド 1908年11月19日)

快く従う

「もし、あなたがたが快く従うなら、地の良き物を食べることができる。」(イザヤ 1:19)

神の王国の律法への服従を要求することで、神はご自分の民に健康と幸福、平安と喜びをお与えになる。(両親、教師、生徒への勧告 454)

すべてのものの父である神を愛し、このお方に忠誠を尽くすという大原則と、子が親を愛しこれに従順を尽くすという原則とは密接に関連している。親の権威を侮れば、やがて、神の権威を侮るようになる。(人類のあけぼの上巻 337)

非常に幼い時にも子供たちは、はっきりとまた単純に語られたことを理解することができ、また親切な思慮深い扱いによって、服従するよう教えることができる。……母親は一回であっても、子供が母親をしのぐことを許すべきではない。そしてこの権威を守るために厳しい手段に訴える必要はなく、あなたの愛を子供に納得させる堅固で安定した手と親切が目的を成就させる。(パシフィック・ヘルス・ジャーナル 1890 年 4 月)

子供たちが母親を愛し、信頼して、母親の言うことを聞くようになるとき、クリスチャンになるについて、最初の教訓が教えられたのである。子供たちは両親に服従し、両親を愛して信頼するのと同様に、キリストに服従し、このお方を愛して信頼するはずである。(同上 1900 年 9 月)

賢明な両親の規範にすみやかに絶えず従順であることは、神の誉れ、また社会の益であるのはもとより、子供たち自身の幸福をも増す。子供たちは、家庭のきまりに従うことの中に自分の完全な自由があることを学ばなければならない。クリスチャンは、同じ教訓、すなわち神の律法に服従することの中に自分たちの完全な自由があることを学ぶ。(ビュー・アンド・ヘルド 1881 年 8 月 30 日)

子供たちは、自分の訓練を受けていない衝動が心に浮かぶままに行動するよう放っておかれるよりも、適切な鍛錬のもとでのほうが幸福であり、しかり、はるかに幸福なのである。(原稿 49、1901 年)

黄金律

「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。これが律法であり預言者である。」(マタイ 7:12)

救い主はこの原則〔黄金律〕を、人を不幸にではなく、幸福にするために教えられた。なぜなら他の方法では幸福はもたらされないからである。神は、男女がより気高い生涯を生きることを望んでおられる。このお方は彼らに生命という恩恵をお与えになるが、それは彼らが単に富を得ることができるためではなく、このお方が人に委ねられた働き、すなわち自分の同胞の必要を捜し出し、軽減するという働きを行うことによって、自分たちの能力をより高く向上させることができるためである。人は自分自身の利己的な関心のために働くのではなく、自分の感化と親切な行為によって他の人々を祝福しつつ、自分の周囲にいる一人びとりの利益のために働くべきである。神のこのご目的はキリストの生涯に例示されている。(原稿 132、1902 年)

あなたの深い愛情をあなたの周りにいる人々に分かちあいながら、その人々の幸福に寄与する機会をすべて捕えなさい。親切な言葉や思いやりにみちたまなざし、感謝の表現などは、苦闘している孤独な多くの人にとって、のどの渇いた人への冷たい一杯の水のようなものである。元気づける言葉や親切な行為は、疲れた肩に重くのしかかっている重荷を軽くするのに大いに役立つ。真の幸福は無我の伝道の中に見出される。そしてそのような奉仕の行為や言葉はみな、キリストに対してなされたものとして天の書に記録されるのである。……キリストの愛という日光の中で生きなさい。そうすればあなたの感化は世を祝福するであろう。(ユース・インストラクター 1903 年 4 月 9 日)

他の人々のために無我の働きをする精神は、品性に深みと安定性、そしてキリストのような麗しさを与え、それを持つ者に平安と幸福をもたらす。(教会への証 5 巻 607)

果したすべての義務、イエスのみ名でなされたすべての犠牲は、非常に大きな報いをもたらす。義務の行為そのものの中で、神はご自分の祝福を語り、また祝福をお与えになる。(同上 4 巻 145)

喜び、また善を行う

「わたしは知っている。人にはその生きながらえている間、喜び、また善を行うことよりほかに良いことはない。」(伝道の書 3:12 英語訳)

青年は自分自身の楽しみを求めることによって幸福を見出すと考えるかもしれないが、彼らがこの道を追求するかぎり、真の幸福は決して自分のものとはならない。救い主はご自分を喜ばせるために生きられなかった。このお方について「良いことをしながら」巡り歩いたと書いてあるのを、わたしたちは読む。救い主は、ご自分の生涯を愛に満ちた奉仕、すなわち悲しんでいる者を慰め、乏しい者のために働き、頭が垂れている者を持ち上げるために費やし、この世では家もなく、ただ旅人として友人の親切でご自分のために備えられた宿を持っておられただけであつた。けれどもこのお方のおられるところは天国であつた。救い主は日毎に試練と誘惑に会われたが、失敗したり、落胆したりすることはなかった。……このお方は常に忍耐強く快活であつたので、苦しんでいる者は、このお方を生命と平安と健康の使者として受け入れた。……

キリストはご自分の生涯の働きの中で、なんと素晴らしい模範をわたしたちのために残して下さったことであろうか。このお方の子のうちだれが、このお方がなさったように、神の栄光のために生きているであろうか。キリストは世の光であるから、主のために成功のうちに働く者は、自分の先細りするともし火に、その神聖な生涯から火を得て燃え立たせなければならない。

キリストは弟子たちに、「あなたがたは地の塩である。もし塩のききめがなくなったら、何によってその味が取りもどされようか。もはやなんの役にもたらず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけである」と言われた。それでは、わたしたちはどれほど注意深くキリストの模範に従うべきであろうか。わたしたちはこうしないかぎり価値のない者、すなわちききめのなくなった塩である。

キリストの模範に従うことによってのみ、わたしたちは真の幸福を見出すことができる。キリストが心に受け入れられるとき、その心は征服され、その心の目的は変わる。(ユース・インストラクター 1901 年 8 月 22 日)

このお方の奉仕は、あなたの幸福を増大しないような制限をあなたにもうけたりはしない。神のご要求に従うことで、あなたは罪の……道では決して持つことのできない平安と安らぎ、そして喜びを見出す。(レヴィ・アズ・ヘルド 1884 年 8 月 26 日)

善行を忍耐強く続ける

「事の帰する所は、すべて言われた。すなわち、神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。」(伝道の書 12:13)

ソロモンは彼が幸福を求めた歴史をわたしたちに示している。彼は知的な研究にたずさわり、快楽への愛着を満足させ、貿易事業計画を遂行した。彼は宮廷生活の豪華な魅惑にとり囲まれていた。……

ソロモンは、六頭の金のライオンが側面に配置され、堅い金でできた踏み段のついた象牙の玉座に座っており、彼の目はちょうど目の前にある非常に洗練された美しい庭にそそがれていた。これらの庭はできるかぎりエデンの園に似るようにと配置された美しいものであった。選りすぐりのあらゆる種類の木や灌木や草花が庭を美しくするために外国から持ち込まれた。光輝く羽毛をもったあらゆる種類の小鳥が良い声で空気をふるわせながら、木から木へと飛びかっていた。上品な従者が華麗な衣服を着て、ソロモンのささいな意向にも従おうと待ちかまえていた。歓楽や音楽、スポーツ、ゲームなどが、王の気晴らしのために莫大な金銭を費やして手配された。

しかしこれらすべては王に幸福をもたらさなかった。……かつてはきれいで知的であった王の顔に、遊興がその痕跡を残した。彼は青年ソロモンから悲しくも変っていった。王の眉間には心配と不幸でしわがより、……その唇は自分の願望からわずかでもそれたことに対して叱責する準備ができていた。

王の損なわれた神経と消耗した体格は自然の法則を犯した結果を示していた。彼はむだにした人生、成功しなかった幸福の追求について告白した。(健康改革者 1878 年 6 月)

真の幸福への道はいつの時代も同じである。善行を忍耐強く続けると、名誉と幸福、そして永遠の生命へと導く。(同上)

善なる者であること、善を行うこと

「主に信頼して善を行え。そうすればあなたはこの国に住んで、安きを得る。」(詩篇 37:3)

真の幸福は、善なる者であることと善を行うことの中のみ見出される。最も純潔で高潔な喜びが、自分たちに委ねられた義務を忠実に果す人の心にもたらされる。……

キリストはすべての人に奉仕の働きを与えておられる。このお方は栄光の王であるが、なおかつ、「人の子がきたのは仕えられるためではなく、仕えるためである」と宣言された。このお方は天の至高者であるが、御父が課された働きを行うために、この地上に来ることに進んで同意された。キリストには気高い働きがあった。キリストはわたしたちに勤勉の模範を与えるために、大工の仕事場で手ずから働かれた。非常に幼いときから、家族を支えて、自分の役割を果たされた。ご自分が家族の一員であることを認識し、重荷のうちのご自分の分担を快く負われた。

子供たちも青年も家庭に無私の関心を示して、父母の気苦労を軽くすることを喜びとすべきである。彼らが自分の分として肩にかかってくる重荷を快く取り上げるなら、有益な者となり、信頼される立場にふさわしくなるための訓練を受けているのである。年毎に彼らは除々にではあるが確実に、少年少女時代の未熟さを脱し、成人男女の経験へと着実に前進していかなければならない。家庭での単純な義務を忠実に果すことにより、少年少女は、精神的、道徳的、靈的に卓越するための土台をすえている。(ユース・インストラクター 1901 年 12 月 5 日)

富と怠惰が本当の祝福であると考える人があるが、常に忙しい人、また自分たちの日々の仕事を快活に行う人は最も幸福な人であり、最も健康を享受する。よく調整された労働の結果として生ずる健康的な疲れは、彼らに元気を回復する眠りという恩恵を得させる。日ごとの糧を得るために労しななければならないという宣告と、未来の幸福と栄光についての約束は、どちらも同じ御座からきており、どちらも祝福である。(クリスチャンの節制と聖書の衛生 97)

足ることを知る

「しかし、信心があつて足ることを知るのは、大きな利得である。」(テモテ第一 6:6)

あまりに多くの気苦労や重荷が家族の中に持ち込まれており、本来の単純さ、平安また幸福がほとんど大切にされていない。家庭外の言動にあまり思いわずらわされないで、家族の一人一人にもっと思慮深い注意を払うべきである。世的な丁寧さを誇示したり、愛着を示すのを少なくして、家族の中で優しさや愛情、快活やクリスチャンの礼儀をもっと多く示すべきである。たくさんの人が家庭を魅力的にする方法、楽しい場所にする方法を学ぶ必要がある。感謝に満ちた心と親切な表情は、富や贅沢よりもはるかに価値があり、単純なことで足ることを知ることは、そこに愛があるなら、家庭を幸福にする。

わたしたちの贖い主、イエスは王の威厳をもって地上を歩まれたが、心は柔和でへりくだっておられた。このお方は快活さと希望、そして勇気を身につけておられたので、あらゆる家庭にとって光と祝福であった。ああ、わたしたちが心の願望を減らし、自分の家庭を美しくするために入手困難な物を得ようと奮闘するのを減らして満足できれば良いのだが。その一方では、神が宝石よりも尊重しておられる柔和としとやかな精神は大切にされていないのである。単純さ、柔和、そして真の愛情という恵みは最も身分の低い家庭をもパラダイスにする。あらゆる不便を快く耐えるほうが、平安と足ることを知ることを放棄するよりもはるかに良い。(教会への証4巻 621, 622)

ここに満足と平安と幸福の秘訣がある。……真のクリスチャンは……有益な者として生涯を送ろうと努力し、イエスの模範に自分の習慣を一致させようと努める。そのような人は最も純粋な幸福、善行の報いを見出す。そのような人は見せかけの人生という奴隷状態から、キリストのような単純さという自由と恵みへと引き上げられる。(健康改革者 1877 年 2 月)

感謝

「主は豊かにわたしをあしらわれたゆえ、わたしは主にむかって歌います。」(詩篇 13:6)

地上のすべての願いが満たされても、人々は、自分たちのおぞましい病を清められ、癒されたが感謝しなかったらい病人のように、気にとめない。このらい病人たちはキリストによって健康を取り戻していただき、病気で破壊されていた部分は、再創造された。しかしながら、完全にしていただいたことを認めたときに、神に栄光を帰すために戻ってきたのは一人だけであつた。……

十人のらい病人に関して記録されている教訓によって、すべての人の心のうちに、現在の忘恩の習慣を賛美と感謝の習慣に変えたいという最も熱心な願望が目覚めさせられるべきである。神の民であると公言する者に、つぶやきと不満を口に出すのを止めさせなさい。どなたがわたしたちのすべての祝福の第一の偉大な与え主であるかを覚えていよう。わたしたちは養われ、衣類を着せられ、生命を支えられているのに、わたしたちの天父に感謝の念をあらわすよう、自分自身と子供たちを教育しないでよいだろうか。(レビュー・アンド・ヘルド 1894年11月13日)

わたしたちは神の恵みについて語り、このお方の力を話す理由がないだろうか。友人がわたしたちに親切なとき、わたしたちは彼らの親切に対して感謝することの特権だと思う。それならばわたしたちにあらゆる良い物、完全な賜物を与えて下さっている友なるお方に感謝を捧げることが、どれほどもっと喜びと考えるべきであろうか。だからどの教会でも、神への感謝の念を養おう。家族の輪の中で、神を賛美するよう、わたしたちの唇を教育しよう。……わたしたちの捧げ物と献金によって、日毎に受けている恩寵への感謝を表そう。わたしたちはすべてのことにおいて主の喜びをあらわし、神の救いの恵みについてのメッセージを知らせるべきである。(レビュー・アンド・ヘルド 1908年5月7日)

キリストの特質をあらわす人々の心は神の愛で照り輝く。彼らは感謝の精神を吹き込まれる。……イエスを掲げなさい。賛美と祈りの声で、カルバリーのお方を掲げなさい。福音を広めようとして熱心に努力しなさい。人間に対する神の愛についての尊い話を語りなさい。この働きの中であなたは、永遠に続く満足を見出すであろう。(レビュー・アンド・ヘルド 1899年7月11日)

感謝と賛美

「感謝しつつ、その門に入り、ほめたたえつつ、その大庭に入れ。主に感謝し、そのみ名をほめまつれ。」(詩篇 100:4)

神が、行うようにとわたしたちのために用意しておられる働きを行いつつ、イエスのみ足の跡を歩みながら、わたしたちが神の奉仕に心と思いを捧げるなら、わたしたちの心は聖なる豎琴となり、世の罪を取り除くために神より遣わされた小羊なるお方に賛美と感謝をささげる琴線となる。……

キリストは、わたしたちの思想がご自分に集中することを望んでおられる。……自己から目をそらし、イエス・キリストへ向けなさい。このお方はあらゆる祝福、あらゆる恵みの命、すなわち神の子らにとって尊く、貴重なすべてのものの命であられる。……

主イエスは、わたしたちの力と幸福であり、人があらゆる場合に、そこから力を引き出すことのできる偉大な宝庫である。わたしたちがこのお方を研究し、このお方について語るとき、このお方をますますよく見ることができるようになる。すなわち、わたしたちは主イエスの恵みを自分のものとして、このお方がわたしたちに差し出される祝福を受けるとき、他の人々を助けるためのものを得る。感謝の念に満たされて、わたしたちはふんだんに与えられている祝福を他の人々に知らせる。このように受け入れて、分け与えることによってわたしたちは恵みに成長し、賛美と感謝の豊かな流れが、たえずわたしたちの唇から流れでて、イエスの美しい精神がわたしたちの心に感謝の祈りを燃えたたせ、わたしたちの魂は安心感と共に高く掲げられる。キリストの常に変わらない、尽きることのない義が、信仰によってわたしたちの義となる。(サインズ・オブ・タムズ 1896 年 10 月 22 日)

新しい一日ごとの新鮮な祝福によって、わたしたちの心のうちに、これらの神の愛の保護のしるしに対する賛美が目覚めるようにしよう。

朝、目ざめたとき一夜の守りを神に感謝し、心の中にある神の平安を感謝し、朝に昼に夜にかおり高い香水のように感謝を天に上らせなさい。……

千々万々の神の御使たちが……悪よりわたしたちを守り、わたしたちを滅ぼそうとする暗黒の権威を退けているのである。常に感謝し、行く手に困難が見えるときにも感謝にあふれるのが当然ではないだろうか。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 230)

生活の小事における忠実さ

「われわれのためにきつねを捕えよ、ぶどう園を荒す小ぎつねを捕えよ。」(雅歌 2:15)

生涯の幸福は多くの点において、日常の務めを忠実に果すことに関係がある。(教育 257)

生涯の幸福を損なうのは、小事、ささいなことに対する軽視である。小事を忠実に果すことは、総じてこの世で実現すべき幸福を築く。小事に忠実な人は大事にも忠実である。小さい問題において不誠実な人、また不忠実な人は、より大きな問題においても同様である。(教会への証 2 巻 700)

あなたがこれらの義務に快く、喜んで取りかかることができないかぎり、より大きな、またより高い義務にふさわしい者とはならない。わたしたちの前にあるつましい仕事はだれかがしなければならないものである。そしてそれをする人は、自分が必要な、名誉ある仕事をしているのであり、自分たちの使命においてそれがどんなにつつましいものであろうと、ちょうど預言者たちに送られたガブリエルと同じように神のみ働きを行っているのだと感じるべきである。(同上 3 巻 80)

男女のうちに精神を発達させ、品性を定めるのは人生における小事である。……あなたは言葉の中に、声の調子に、しぐさの中に、そして表情の中にイエスの精神をあらわすことができる。これらの小事を無視しながら、自分は主のために素晴らしいことをする用意ができているとうぬぼれる者は、完全に失敗する危険がある。生涯は大きな犠牲や素晴らしい業績で作り上げられるのではなく、小事で成り立っている。(手紙 6、1886 年)

路傍のありふれた小さな花を顕微鏡で調べてみると、そのあらゆる部分にわたって精巧な美しさと完全さがみられる。そのように、どんなにつつましい持ち分の中にも、真の美德が見いだすことができる。どんなに平凡な仕事でも、それを愛して忠実になすときに、神の御目にはりつぱに見えるのである。(教育 122, 123)

花から流れるかおりのように静かに生活から流れ出るわずかな心づかいや愛と自己犠牲の小さな行為—こうしたものが少なからず人生の祝福と幸福に寄与する。(祝福の山 101)

家庭における愛情にみちた配慮

「もしわたしたちが互いに愛し合うなら、神はわたしたちのうちにいまし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。」(ヨハネ第一 4:12)

あなたの家庭の雰囲気を書優しい配慮の香るものとしなさい。(手紙 86、1891年)

家庭は最も純潔で最も高められた愛情の中心でなければならない。平和、調和、深い愛情そして幸福が家族を構成する一人一人の心に宿るまで、これらの尊い特質は、日々根気強く大切にされなければならない。(サイン・オブ・タイムズ 1911年 5月20日)

この世に、頑固な男女が非常にたくさんいる理由は、真の愛情が弱さに見なされ、妨げられ、抑制されるからである。この種の人々の性質におけるより良い部分は、子供時代にゆがめられ成長が妨げられている。そのため、天来の輝く光が彼らの冷たく頑固な利己心を溶かし去ることができないかぎり、そのような人々の幸福は永遠に葬られているのである。イエスが地上におられた時に持つておられたような優しい心をわたしたちが持ちたいのなら、また天使が罪深い人間に対して持つているような清められた思いやりを持ちたいのなら、わたしたちは幼い頃の思いやり、飾り気のない同情心を養わなければならない。(教会への証 3巻 539)

あなたができる時にはいつでも子供たちを励ましなさい。彼らの生活をできるかぎり幸福なものにしなさい。……心の土を、愛と深い愛情をあらわすことによって肥沃にし、このようにして真理の種をまく準備をしなさい。……主は、種が芽を出し、花が咲くようにと、地に雲と雨ばかりではなく、美しい輝く陽の光をもお与えになる。(両親、教師、生徒への勧告 114)

同意しているという目つきや奨励、称賛の言葉は、子供の心にとって日光のようで、その一日中を楽しくさせることがよくある。(ミストリー・オブ・ヒーリング 358)

夫と子供たちの幸福は、他のだれよりも妻であり母である人にとって聖なるものでなければならない。(教会への証 1巻 465)

歌え、そうすれば世界はあなたと共に歌う

「主は新しい歌をわたしの口に授け、われらの神にささげるさんびの歌をわたしの口に授けられた。多くの人はこれを見て恐れ、かつ主に信頼するであろう。」(詩篇 40:3)

神はわたしたちが幸福であることを望まれる。このお方はわたしたちの唇に新しい歌を授けたいと願っておられる。神は、ご自分がわたしたちの罪を許し、わたしたちの不義を取り去って下さることを、わたしたちが信じることを望んでおられる。わたしたちの心の中でご自分へ美しい旋律を奏でることを望んでおられるのである。……

わたしたちが口に出すすべての言葉、わたしたちの書くすべての文章が励ましとゆらぐことのない信仰に満ちたものとなるようにしよう。……イエスがあなたの兄弟の救い主であるだけだと考えないようにしなさい。このお方はあなたの個人的な救い主である。もしあなたがこの尊い思想を心に抱くなら、あなたは……自分の魂の中に神への美しい旋律を奏でるであろう。神にあって勝利するのはわたしたちの特権である。自分たちの唯一の希望は神の内にあることを他の人々が知るように導き、避難所としてこのお方のもとに逃れるよう導くのはわたしたちの特権である。

神に捧げる行為の一つ一つは喜びをもたらす。なぜなら、このお方が与えて下さった光をわたしたちが感謝するとき、ますます大きな光が来るからである。わたしたちは……義の太陽の輝く光線に心を開かなければならない。完全な服従の中には平安がある。……

神の平安があなたの魂に行き渡るようにしなさい。その時あなたはすべての苦しみに耐えうる力を持ち、耐えるべき恵みのあることを喜ぶであろう。主を賛美しなさい。主の恵みについて語りなさい。このお方の力について話しなさい。あなたの魂を取り巻く雰囲気のを和らげなさい。……あなたの表情を健康にするお方、あなたの救い主なる神を、心と魂と声をもって賛美しなさい。(ユース・インストラク - 1900年12月27日)

歌をもって神をほめ、感謝をささげなさい。誘惑にあうとき、自分の気分を口に出さないで、信仰によって神に感謝の歌をささげるべきである。歌は失望するときにいつでも用いることのできる武器である。救い主より出る光に心をうち開くとき、健康と祝福を受ける。(ミストリー・オブ・ヒーリング 231, 232)

自然の美

「主のみわざは偉大である。すべてそのみわざを喜ぶ者によって尋ね窮められる。
……主はそのくすしきみわざを記念させられた。」(詩篇 111:2-4)

わたしたちの最初の両親の家庭として、エデンを非常に美しく造られた神は、また堂々とした木や美しい草花、そしてわたしたちの幸福のために自然界にあらゆる美しい物を与えておられる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1871 年 7 月 24 日)

わたしたちが見回すところにはどこでも最初的美しさの跡があり、どこを向いても神のみ声を聞き、み手のわざを見る。……

自然界の万々の声は神への賛美を語る。見事な対比を見せる変化や、柔らかくまじりあって調和のとれた驚くべき色合いや色調に、わたしたちは神の栄光を見る。果てしない丘はわたしたちに神の力を語りかけ、木々は陽光に緑の旗をふって、創造主を見上げるようにと指し示す。その美しさで地を飾る草花は、エデンについてわたしたちにささやきかけ、そのあせることのない美しさに対するあこがれでわたしたちの心を満たす。茶色の大地をおおう生き生きとした緑は、被造物の最も卑しい物に対する神の心づかいについてわたしたちに語る。海の洞窟や地の深いところは神の宝をあらわす。海に真珠をちりばめ、岩の間に紫水晶や貴かんらん石をちりばめるお方は、美しいものを愛される方である。空に上ってくる太陽は、被造物すべての光であり生命であるお方を表す。地を飾り、天を明るくする輝きや美しいものはすべて神について語る。

わたしたちは賜物を楽しみながら、与え主を忘れてしまうのであろうか。むしろ、これらの賜物によって与え主のいつくしみ深さと愛を熟考しよう。わたしたちの地上の住まいにあるすべての美しいものによって、わたしたちの天の住まいの水晶の川と緑の野、風にそよぐ木々と生ける泉、光輝いている都と白い衣を着た合唱隊を思い、芸術家も描くことができず、人間の舌が表現することのできない程の美しい世界を思いおこそう。(グッド・ヘルス 1882 年 8 月)

静けさと保証

「正義は平和を生じ、正義の結ぶ実はとこしえの平安（静けさ）と信頼（保証）である。」（イザヤ 32:17）

心理学の真の原則は、聖書の中に見出される。人は自分自身の価値を知らない。自分の改心していない品性の気質のままに行動する。なぜなら自分の信仰の創始者であり完成者であるイエスを見つめないからである。イエスに来る者、このお方を信じ、自分の模範とする者は、彼らに「彼は神の子となる力を与えたのである」というみ言葉の意味を悟る。……

真の改心の経験を通った人々は、鋭い知覚力をもって、恐れおののいて自分の救いの達成に努めるべき神に対する責任と、罪というらい病からの回復を完全なものにするという責任を自覚する。そのような経験は、彼らをへりくだらせ、信頼して神に頼るよう導く。（原稿 121、1900 年）

主の目がわたしたちに注がれており、その耳はわたしたちの祈りを聞くために開かれていることを意識することは実に満ち足りた喜びである。わたしたちが魂の秘密をすべて打ち明けることのでき、裏切ることのありえない友がおられることを知るのは、決して言葉では言い尽くせない特権である。（レ・ユー・アンド・ヘルト 1880 年 3 月 11 日）

イエス・キリストの宗教を満喫している男女に、不安、落ち着きのなさ、不満、移り気はない。心に宿るキリストの平安は、品性に堅実さを与える。（手紙 8、1888 年）

あなたは自分の魂から何ものにも、平安、落ち着き、そして今現在受け入れられているという確証を奪わせてはならない。あらゆる約束を自分のものとしなさい。すべてのものは、主があらかじめ定められた条項にあなたが応じるという条件の下にあなたのものである。非常に賢明に思え、キリストの方法をとつていように思えるあなたの方法を完全に捨てることが、キリストの愛のうちに完全な休息を得る秘訣である。（手紙 130、1898 年）

キリストの奉仕に捧げられた魂には、世が与えることも取り去ることもできない平安がある。（レ・ユー・アンド・ヘルト 1894 年 11 月 27 日）

心に楽しみがあれば顔色も喜ばしい

「心に楽しみがあれば顔色も喜ばしい、心に憂いがあれば気はふさぐ。」(箴言 15:13)

あなたに重荷があつて疲れていても、枯れた枝についている葉のように縮れてしまう必要はない。快活さと明晰な良心は葉よりもすぐれ、あなたの健康を回復するのに効果的な手段である。……

あなたは快活であるために努力することによって恩恵を受ける。……できかぎり戸外に出て、そよ風と喜ばしい日光から恩恵を受けなさい。小鳥の歌声や自然の美しさによってあなたの心に聖なる感謝の気持ちが目覚め、あらかじめあなたの必要を知って、ご自分の愛と変わらぬ心づかいの数えきれないほどのしるしであなたを取り巻いてくださるあなたの創造主をあがめるようにしなさい。……

あなたが生きている間、人生における目的を持ちなさい。あなたの周りにある日光を、雲の代りに集めなさい。あなたの周りにいるすべての人々によい香りを分け与えながら、神の園にある生き生きとした美しい花となるよう努めなさい。これをしなさい。そうすればあなたはすぐに死ぬことはない。しかし不幸につぶやくなら、確かにあなたは自分の日々を短くする。……

あなたの生活から腐敗している葉をすべて取り除き、枯れた枝を切り取りなさい。そしてただ新鮮さと活力をあらわしなさい。(健康改革者 1871 年 6 月)

クリスチャンの快活さは、自分が神の子であるがゆえに享受する大きな祝福を熟考することによって生じる。「だから、わたしの愛し慕っている兄弟たちよ。わたしの喜びであり冠である愛する者たちよ。このように主にあって堅く立ちなさい」。神と和解をしているという保証によって、思いと魂の宮を快活に啓発すること、またわたしたちがキリストを通して永遠の生命を持つという希望、そして他の人々を祝福するという喜びは、少しも悲しみをもたらすことのない喜びである。(手紙 28、1897 年)

クリスチャンは生きている人々の中で最も快活で幸福な人々でなければならない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1871 年 7 月 25 日)

いつくしみ（親切）はクリスチャンのしるし

「彼女は口を開いて知恵を語る、その舌にはいつくしみの教がある。」（箴言 31:26）

あなたの感化力は、魂に届く。あなたは針金ではなく、神へと振動がもどるものに触れるのである。……あなたはクリスチャンという言葉の最高の意味においてクリスチャンになること、すなわち「キリストに似る」者となることがあなたの義務である。あなたと接触する人々があなたに惹きつけられるのは、目には見えない糸を通してであり、もしあなたが神とたえず交わりをしているなら、それはあなたを命から命に至らせる香りとする印象を残す。一方、あなたが利己的であったり、自分を高めたり、世間的思いを持っているなら、あなたの地位や経験がどのようなものであっても、あなたがどれほどたくさん知っていても、あなたが唇にいつくしみという律法を持っていないなら、心から流れ出る愛のかぐわしい香りがないなら、あなたはなすべきことを何もすることができない。（手紙 37、1891 年）

いつくしみと愛と礼儀はクリスチャンのしるしである。……互いの交わりの中で、他の人の経験の中には、人間の目には隠されている章があることを常に覚えていよう。天の書の中には記されているが、詮索好きな目から厳粛に守られている悲しい歴史がある。そこには、家庭のただ中で生じる厳しい状況との長く困難な戦いが記録されている。それは日々勇気、信仰、確信を奪い、人間性そのものが破滅するばかりに見える。しかしイエスはそれをすべて知っておられ、決して忘れることはない。そのような人に対するいつくしみと深い愛情のこもった言葉は天使たちの笑顔のように歓迎される。真の友の力強く助けになる手は金銀よりも価値がある。（同上 16、1896 年）

偽りのない単純さのうちにあらわされた姉妹や兄弟、友人の誠実で正直な表現は、キリストのような言葉の香りとキリストの愛の精神の単純で繊細な接触を必要としている心の扉を開く力がある。（原稿 161、1900 年）

愛は多くの傷をいやす

「愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。」
(ヨハネ第一 4:7)

クリスチアンの観点からみると、愛は力である。知的、霊的な力強さはこの原則と関連している。純粋な愛は善を行うのに特に効果があり、善以外に何もすることができない。この愛は不一致と苦悩を防ぎ、最も純粋な幸福をもたらす。富はしばしば墮落と破壊への影響力となり、力は傷つけるのに力強い。しかし真理と善は、純粋な愛の特質である。(教会への証 4 巻 138)

神とまた同胞と平和を得ている人が、みじめになることはありえない。うらやみはその人の心にはない。悪い憶測が占める場所はない。憎しみは存在することができない。神と調和している心はこの世のわずらいや試練を超越して引き上げられる。(同上 5 巻 488)

サタンが心に植えつけるもの、すなわち、うらやみ、妬み、悪い憶測、悪口、いらだち、偏見、利己心、貪欲、そして虚栄は引き抜かなければならない。もしもこれらの悪いものが魂の中にとどまるのを許されるなら、多くの人が汚される実を結ぶ。ああ、どれほど多くの人が毒草を育てて、愛の尊い実を枯らし、魂を汚すことであろうか。(サインズ・オブ・タイムズ 1911 年 6 月 20 日)

いやすことができるのは、キリストの心から出る愛のみである。木に樹液が流れ、体内に血液が流れているように、この愛の流れている人だけが、傷ついた魂を回復することができる。

愛の働きはすばらしい能力をもっている。なぜなら、それは天来のものだからである。「憤りをとどめ」る柔和な答え、「寛容で慈悲あ」る愛、「多くの罪をおお」う愛—こうしたことについて、教訓を学ぶとき、われわれの人生には、いかに大きないやしの力が賜物としてあたえられることであろう。そのとき、人生はいかに変化し、地上には、いかに天国の雰囲気を感じられるようになることであろう。(教育 122)

傷つけ悲しませることは何も言わない

「いのちを愛し、さいわいな日々を過ごそうと願う人は、舌を制して悪を言わず、くちびるを閉じて偽りを語らず、悪を避けて善を行い、平和を求めて、これを追え。」
(ペテロ第一 3:10,11)

策略が唇を墮落させないように、絶えず唇が守られているなら、どれほどの量の苦しみや退廃、みじめさを防げることであろうか。もしわたしたちが罪に対する必要な譴責以外に、傷つけ悲しませることを何も言わないなら、神は辱められることなく、どれほど多くの誤解や苦々しさ、苦痛を防ぐことであろうか。もしわたしたちが良い励ましの言葉や神にある希望と信仰の言葉を語るなら、わたしたちは自分自身の魂の上にある光線をもっと明るく反射するようにと、どれほど多くの光を他の人々の道に注ぐことであろうか。……聖書の中であらわされているように、救いの計画は、天のいつくしみを喜び、神の命で測られる将来の命を確保するのと同様、それによって人が地上で幸福を確保し、長く生きることができ、道を開く。(レビュー・アンド・ヘラルド 1883 年 10 月 16 日)

多くの人は、自分自身のとった道の必然的な結果として自分の被っている不快さや不便さのゆえに、神のみ摂理につぶやく。彼らは、自分ががまんしている苦しみに対する責任が自分にしかないときに、神に冷遇されていると感じているように見える。わたしたちのいつくしみ深く憐れみ深い天父は、従うならば、身体的にも精神的にも道徳的にも健康を増進する律法を制定された。……

神はわたしたちに、自分自身の意志を神のみ旨に明け渡すよう命じておられる。しかし神は、わたしたちが持ち続けるのに良いものを何一つあきらめるようにとは言われぬ。だれも自分の人生を利己的な満足のために捧げるかぎり幸福ではあり得ない。神への服従という進路は、わたしたちにとって進むべき最も賢明な進路である。なぜなら、それは確かな結果として平安、満足、幸福をもたらすからである。……

もし人が神のみ言葉の勧告に聞き従うことによって、自分自身を神との正しい関係に置いていれば、数えきれないほどの危険を逃れ、人生を重荷ではなくむしろ喜びにするような平安と満足を経験するのだが。(レビュー・アンド・ヘラルド 1883 年 10 月 16 日)

全き平安

「あなたは全き平安をもってころごしの堅固なものを守られる。彼はあなたに信頼しているからである。」(イザヤ 26:3)

この世の標準に達しようとして、心配の重荷に心を痛めている人が多い。彼らは世の奉仕をえらび、世のわずらいを受け入れ、世の習慣を取り入れた。こうして彼らの品性はそこなわれ、人生は疲れはてたものとなる。野心と世俗的な欲望を満足させるために、彼らは良心を傷つけ、悔恨というよけいな重荷まで背負いこむ。たえない心配のために、生活の力はすりへって行く。主は彼らがこの束縛のくびきを放棄するよう望まれる。イエスはわたしのくびきを負いなさいと彼らを招いておられる。「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」と主は言われる(マタイ 11:30)。イエスは彼らに、まず神の国と神の義とを求めなさいと命じられる。そうすればこの世の生活に必要なものはすべて加えられると、主は約束しておられる。心配はめくらであって、将来を見分けることができない。しかしイエスは、始めから終わりまで見通される。困難のたびに、イエスはそれを取り除くためにご自分の道を備えられる。天の父なる神は、われわれのために無数の道を備えてくださるが、われわれはそのことを何も知らないのである。神に奉仕しそのみ栄えをあらわすことを最高のものとするというただ一つの原則を受け入れる者は、困った問題がなくなり、足元にはっきりした道が開かれることに気がつくのである。……

キリストの心の中は、神との完全な調和に支配されていたので、完全な平安があった。彼は称賛に得意になったり、酷評や失望に落胆したりなどされなかった。最も激しい反対と最も残酷な仕打ちのただ中にあっても、イエスは勇気を失われなかった。(各時代の希望中巻 50, 51)

真の幸福はキリストについて学ぶことの中に……見出される。……キリストをそのみ言葉通りに受け入れ、魂をこのお方のものとして捧げ、自分の生活をこのお方の命令に従わせる人は平安と平静を見出す。イエスがご自分の臨在で彼らを喜ばせるときに、世の何ものも彼らを悲しませることはできない。(サィズ・オブ・タイムズ 1904 年 1 月 3 日)

不安を生じさせるのは自分を愛する心である。(各時代の希望中巻 51)

信頼は安全を意味する

「正しい人は決して動かされることなく、とこしえに覚えられる。彼は悪いおとずれを恐れず、その心は主に信頼してゆるがない。」(詩篇 112:6, 7)

神はご自分のみ言葉の中に、その神聖な性質の証拠を十分にお与えになった。われわれの贖いに関する大真理は、はっきりと示されている。心から求めるすべての者に約束されている聖霊の助けによって、だれでも自分で理解することができるのである。神は、人が信仰をおくことのできる固い基礎をお与えになっている。

それにしても、限りある人間の知力は、無限の神のご計画とご目的とを十分に悟ることはできない。われわれは、神の深いことを窮め尽くすことはできない。神がご自身の威光をおおっておられる幕を、僭越にも引き上げようとしてはならない。使徒はこう言っている。「ああ深いかな、神の知恵と知識との富は。そのさばきは窮めがたく、その道は測りがたい」。われわれは、限りない愛とあわれみが無限の力と結合していることを認識できる程度には、神が人間を救われる方法や神の行動の動機について理解することができる。天の父は、すべてのことを知恵と義によって行なわれるのであるから、われわれは、不満に思ったり、不信を抱いたりしないで、うやうやしく服従すべきである。神は、われわれが知ってよいことだったら、何でもご自分の目的を示してくださるであろう。それ以上のことは、全能のみ手と、愛に満ちたみところにおまかせしなければならない。

神は、われわれが信ずるに足る十分な証拠をお与えになっているが、一方また不信に対する口実を全部取り除かれるわけではない。疑おうと思うなら、その余地はいくらでもある。……

神への不信は、新生を経験していない神に逆らう心の当然の結果である。しかし、信仰は、聖霊によって与えられるものであり、それをたいせつに育てるときにのみ栄えるものである。だれも固い決意をもって努力するのではなければ、強い信仰を持つことはできない。……へりくだった心で神によりたのみ、神のすべての戒めに服従する者だけが安全なのである。(各時代の斗争圖下巻 271 ～ 276)

泣くな

「なぜ泣いているのか」(ヨハネ 20:15)

「わたしたちは、イスラエルを救うのはこの人であろうと、望みをかけていました」ということばを、彼らはしばしばくりかえした(ルカ 24:21)。さびしい、悲観した気持ちで、彼らは、「もし、生木でさえもそうされるなら、枯木はどうされることであろう」と言われたキリストのことばを思い出した(ルカ 23:31)。彼らは二階の部屋に集まり、愛する師の運命がいつ自分たちの運命となるかも知れないことを思って、戸口を固くとぎした。

ところがその間中、ずっと彼らは、救い主がよみがえられたことを知ってよるこんでいられたはずである。園では、イエスがそば近くにおられたとき、マリヤは泣いていた。彼女の目は涙にくもっていたので、イエスがわからなかった。また、弟子たちの心は悲しみでいっぱいだったので、彼らは天使たちのことばも、キリストご自身のことばも信じなかった。

いまでもこれらの弟子たちと同じことをしている者がどんなに多いことだろう。「だけれど、わたしの主を取り去りました。そして、どこに置いたのか、わからないのです」というマリヤの絶望的な叫びをくりかえす者がどんなに多いことだろう。どんなに多くの人々に、「女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか」という救い主のことばが語られることだろう。イエスは彼らのそば近くにおられるのに、彼らのくもった目にはイエスがわからないのである。イエスは彼らに話しかけられるが、彼らは理解しないのである。

ああ、うなだれた顔をあげ、目を開いてイエスを見、耳にイエスの声を聞くことができるように。「急いで行って、イエスはよみがえられたと弟子たちに伝えなさい。……望みなく、助けなき者のように嘆くな。イエスは生きておられ、彼が生きておられるがゆえにわれわれも生きるのである。感謝の心で、聖なる火にふれたくちびるで、キリストはよみがえられたとよろこばしい歌をひびかせなさい。主は生きてわれらのとりなしをしてくださる。この望みをとらえなさい。そうすれば、それはたしかな、あてになる錨(いかり)のようにわれらの魂をつなぎとめるであろう。信じなさい、そうすればあなたは神の栄光を見るであろう。(各時代の希望 下巻 328, 329)

恐れるな

「恐れるな、わたしはあなたをあがなった。わたしはあなたの名を呼んだ、あなたはわたしのものだ。」(イザヤ 43:1)

しばしばわたしたちの試練はほとんど耐えがたいように見えるが、実に神からの助けがなくては耐えられないのである。わたしたちが神に寄り頼まないかぎり、ただ悲しみと悲嘆をもたらす責任の重さに沈んでしまう。しかしもしわたしたちがキリストを頼みとするなら、試練のもとで沈むことはない。すべてが暗く、明らかにすることができないように見えるとき、わたしたちはこのお方の愛に信頼すべきである。わたしたちはキリストが「わたしのしていることは今あなたにはわからないが、あとでわかるようになるだろう」と、わたしたちの魂に語られたみ言葉を繰り返し返さなければならない。……

あたかもイエスがヨセフの墓の中におられて、大きな石が扉の前どころがされているかのように行動してはならない。……あなたの信仰の試練の中で、あなたには、よみがえられた救い主、あなたとあなたの愛する者のために仲保をしておられる方がおられることを知っていることを示しなさい。……

聖書はわたしたちの幸福についての責任をわたしたち自身に置いている。わたしたちは命の光を見なければならぬ。わたしたちが有用であるかどうかは、わたしたち自身がとる行動の方向にかかっている。(手紙 33、1895 年)

わたしたちはみな幸福を非常に切望するが、めったに見出すことはないのは、多くの者が奮闘する代わりに、間違った方法で求めるからである。わたしたちはこの上なく熱心に努力し、わたしたちの願望をすべて信仰と混ぜ合わせなければならない。そのとき幸福はほとんど気づかないうちにわたしたちの中に入り込む。……わたしたちがいやな状況にあっても、イエスの愛を確信して安んじ、このお方の愛のうちにやすらかに休息しながら、イエスと共に自分自身を閉じ込めるなら、イエスが臨在しておられるという意識が、深い穏やかな喜びを抱かせる。この経験によってわたしたちは信仰、すなわち思い悩ませたり、心配させるのではなく、無限の力に頼ることのできる信仰をわたしたちに得させる。(同上 57、1897 年)

わたしたちは、自分たちと共におられる至高者の力を持つであろう。……イエスはわたしたちのそばに立っておられる。……数々の試練が来るとき、神の力が、それらと共にとおとずれる。(ビュー・アポド・ヘアム 1890 年 4 月 29 日)

疑うな

「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。」(ローマ 8:28)

試練が来るとき、それらはあなたの益のために送られていることを覚えていなさい。……試練や苦難があなたにおとずれるとき、それらはあなたが栄光の主から再び新たにされた力と増し加わるへりくだりとを受けることができるために送られていることを知りなさい。その結果、主はあなたを間違いなく祝福し、支え、是認することがおできになる。信仰をもって、「恥としない」希望をもって、神のみ約束をしっかりとかみなさい。

ああ、主はわたしたちすべての者にとってなんと良いお方であろう。そしてわたしたちはどれほどこのお方を間違いなく信頼することができることか。主はわたしたちをご自分の小さな子供たちと呼ばれる。それでは、わたしたちはこのお方のところへ愛情に満ちた父親のところへ行くように行こうではないか。ご自分の義の明るい光線がわたしたちの顔から、わたしたちの言葉と行為に輝き出ることがこのお方の願望である。キリストがわたしたちを愛されたように、わたしたちも互いに愛しあうなら、神とお互いからわたしたちを引き離している防壁は壊され、心から心へと流れている聖霊を妨げる多くの障害物が取り除かれる。……全心全霊をこめて主を信頼しなさい。このお方はあなたとあなたの重荷を支えてくださる。(手紙 13、1904 年)

主は、ご自分の民が幸福であるようにと計画し、慰めの源を次から次へとわたしたちの前に開かれる。それはわたしたちが現在の経験のただ中で喜びと平安に満たされ得るためである。わたしたちは輝きと快適さと喜びを天国に入るまで待つべきではない。それらをこの世でこの地上で持つべきである。……わたしたちは、苦悩の中にあって、わたしたちのものであるはずの祝福をつかまないために、非常に多くのものを捕え損なっている。わたしたちのすべての苦しみと悲しみ、すべての誘惑と試練、すべての悲哀と悲嘆、すべての迫害と不足、また万事につけての欠乏は、わたしたちの益のために共に働く。……すべての経験と状況は、それによって、いつくしみがわたしたちにもたらされる神の職人である。雲の後ろにある光を見よう。(ビュー・アンド・ワルド 1894 年 2 月 27 日)

わたしたちの幸福はわたしたちの周りにあるものから来るのではなく、わたしたちの内にあるものから来る。わたしたちが持っているものから来るのではなく、わたしたちがどういう者であるかによるのである。(ユース・インストラクター 1902 年 1 月 23 日)

研究 6

七つの封印と生ける神の印



イエスの預言

前回まで、贖いの契約は変わることのない確かなものとして封印されたことをみました。この契約はだれも変更することができません。贖いの過程を経るとき、その封印が解かれて贖いが成就します。わたしたちは、前回ヨハネと共にその贖いが成就した時に全天に響き渡る贖いの歌を聞きました。

では、その封印はいつ解かれるのでしょうか。それは黙示録 6 章に記されています。

一つずつ解かれていく七つの封印の預言は、実はイエスご自身が、終わりの時について預言された内容の繰り返しでした。

イエスの説教（預言）

「どうぞお話しください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか」（マタイ 24:3）。

「聖書に啓示された最も厳粛で、最も輝かしい真理の一つは、キリストが、贖罪の大きな業を完成するためにふたたび来られるという真理である。……キリストの再臨という教義は、聖書の基調そのものである」（各時代の争闘上巻 385）。

「イエスがひとりになられて、オリブ山にすわっておられると、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレがみもとにやってきて、『どうぞお話しください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか』と言った（マタイ 24:3）。イエスは弟子たちに答えるにあたって、エルサレムの滅亡とご自分がおいでになる大いなる日とを別々にとりあげられなかった。主はこの二つの出来事をいっしょにまぜて描写された。イエスがご

自分のごらんになった通りに未来の諸事件を弟子たちに示されたら、彼らはその光景に耐えることができなかったであろう。彼らに対する思いやりから、主は二つの大きな危機をまぜて描写し、その意味を弟子たちが自分で学ぶようにされた。主がエルサレムの滅亡のことを言われたとき、その預言のことばはエルサレムの滅亡という事件を超えて最後の大火の日にまで及んでいた。……この話の全体は、ただ弟子たちのためだけでなく、地上歴史の最後の場面に住む者たちのために語られたのであった」（各時代の希望下巻 92）。

「この書〔黙示録〕の教えは、明白であって、不可解でも理解できないものでもない。その中にダニエルの中にあるのと同じ預言の規則が取り上げられている。ある預言を神はくり返されたが、そうすることによってそれらに重要性を持たせるためであった。大きな重要性をもつ事柄でなければ、主がくり返されることはない」（原稿 107, 1897 年）。

そうです、主ご自身の口より語られた預言は重要であつたためにくり返されました。それでは、何がどのようにくり返されたかを見ていきましょう。

・福音

マタイ 24:14 そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。

黙示録 6:1-2 小羊がその七つの封印の一つを解いた時、わたしが見てみると、四つの生き物の一つが、雷のような声で「きたれ」と呼ぶのを聞いた。そして見てみると、見よ、白い馬が出てきた。そして、それに乗っている者は、弓を手に持っており、また冠を与えられて、勝利の上にもなお勝利を得ようとして出かけた。

・戦争（剣）

マタイ 24:6,7,9 また、戦争と戦争のうわさを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけない。それは起らねばならないが、まだ終りではない。民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。……そのとき人々は、あなたがたを苦しみにあわせ、また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。

黙示録 6:3-4 小羊が第二の封印を解いた時、第二の生き物が「きたれ」と

言うのを、わたしは聞いた。すると今度は、赤い馬が出てきた。そして、それに乗っている者は、人々が互に殺し合うようになるために、地上から平和を奪い取ることを許され、また、大きなつるぎを与えられた。

・ききん

マルコ 13:8 またききんが起るであろう。これらは座みの苦しみの初めである。

黙示録 6:5-6 また、第三の封印を解いた時、第三の生き物が「きたれ」と言うのを、わたしは聞いた。そこで見てみると、見よ、黒い馬が出てきた。そして、それに乗っている者は、はかりを手に持っていた。すると、わたしは四つの生き物の間から出て来ると思われる声が、こう言うのを聞いた、「小麦一ますは一デナリ。大麦三ますも一デナリ。オリブ油とぶどう酒とを、そこなうな」。

(参考)

「しかし、あなたの神、主の声に聞き従わず、きょう、わたしが命じるすべての戒めと定めとを守り行わないならば、……主は……かんばつと、立ち枯れと、腐り穂とをもってあなたを撃たれるであろう」(申命記 28:15-23 参照)。

「人々は、今や飢餓の恐怖にさらされていた。小麦一升の価は一タラントであった」(各時代の斗争闘上巻 19)。

・疫病

ルカ 21:11 あちこちに疫病……が起り、いろいろ恐ろしいことや天からの物すごい前兆があるであろう。

黙示録 6:7,8 小羊が第四の封印を解いた時、第四の生き物が「きたれ」と言う声を、わたしは聞いた。そこで見てみると、見よ、青白い馬が出てきた。そして、それに乗っている者の名は「死」と言い、それに黄泉が従っていた。彼らには、地の四分の一を支配する権威、および、つるぎと、ききんと、死と、地の獣らとによって人を殺す権威とが、与えられた。

・迫害(殺す)

マタイ 24:9 そのとき人々は、あなたがたを苦しみにあわせ、また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。

黙示録 6:9-11 小羊が第五の封印を解いた時、神の言のゆえに、また、そのあかしを立てたために、殺された人々の靈魂が、祭壇の下にいるのを、わたしは

見た。彼らは大声で叫んで言った、「聖なる、まことなる主よ。いつまであなたは、さばくことをなさらず、また地に住む者に対して、わたしたちの血の報復をなさらないのですか」。すると、彼らのひとりびとりに白い衣が与えられ、それから、「彼らと同じく殺されようとする僕仲間や兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように」と言い渡された。

・患難

マタイ 24:9, 21 そのとき人々は、あなたがたを苦しみにあわせ、また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。……その時には、世の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような大きな患難が起るからである。

黙示録 7:14 わたしは彼に答えた、「わたしの主よ、それはあなたのご存じです」。すると、彼はわたしに言った、「彼らは大きな患難をとおってきた人たちであって、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである。

・報復

ルカ 21:22 それは、聖書にしるされたすべての事が実現する刑罰の日であるからだ

黙示録 6:10 彼らは大声で叫んで言った、「聖なる、まことなる主よ。いつまであなたは、さばくことをなさらず、また地に住む者に対して、わたしたちの血の報復をなさらないのですか」。

・天におけるしるし

マタイ 24:27 ちょうど、いなずまが東から西にひらめき渡るように、人の子も現れるであろう。

黙示録 6:12, 13 小羊が第六の封印を解いた時、わたしが見ていると、大地震が起って、太陽は毛織の荒布のように黒くなり、月は全面、血のようになり、天の星は、いちじくのまだ青い実が大風に揺られて振り落されるように、地に落ちた。

・地震

マタイ 24:7 また地震があるであろう。

黙示録 6:12 小羊が第六の封印を解いた時、わたしが見ていると、大地震が起って

・地の民族は嘆く

マタイ 24:30 そのとき、地のすべての民族は嘆き

黙示録 6:15-17 地の王たち、高官、千卒長、富める者、勇者、奴隷、自由人らはみな、ほら穴や山の岩かげに、身をかくした。そして、山と岩とにむかって言った、「さあ、われわれをおおって、御座にいますかたの御顔と小羊の怒りとから、かくまってくれ。御怒りの大いなる日が、すでにきたのだ。だれが、その前に立つことができようか」。

・人の子の来臨

マタイ 24:30 そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、……力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。

黙示録 6:17 御怒りの大いなる日が、すでにきたのだ。だれが、その前に立つことができようか。

神がくり返し述べられたこの重要な預言を、わたしたちはよく研究し、自分で理解する必要があります。なぜなら、この話の全体は、ただ弟子たちのためだけでなく、地上歴史の最後の場面に住む者たちのために語られたからです。

では次回より、第一の封印から見ていきます。

ですから、彼は博士たちを人のいないところへつれて行き、いつその星を最初に見たかをたずねました。それから、次のように言って、彼らをベツレヘムに送りました。『行って、その幼な子のことを詳しく調べ、見つかったらわたしに知らせてくれ。わたしも拝みに行くから』。

これを聞いて、博士たちは、また旅を始めました。「見よ、彼らが東方で見た星が、彼らより先に進んで、幼な子のいる所まで行き、その上にとどまった。

そして、家にはいって、母マリヤのそばにいる幼な子に会い、ひれ伏して拝み、また、宝の箱をあけて、黄金・乳香・没薬などの贈り物をささげた」(マタイ 2:8-11)。

自分が持っていた最も貴重なものを、博士たちは救い主のもとへたずさえて行ったのでした。ここで彼らはわたしたちに模範をのこしています。多くの人々は、自分の地上の友人たちには贈り物をしますが、彼らにすべての祝福をあたえてこられた天の友のためには何もないのです。わたしたちはそうすべきではありません。キリストにこそ、わたしたちは自分の持っているすべてのもの—わたしたちの時、お金、わたしたちの愛—の中で最上のものをたずさえていくべきです。

わたしたちは貧しい人を助けたり、人々に救い主のことを教えるためにささげることによって、このお方にささげることができます。こうして、このお方がそのために死なれた人々を救うために助けることができるのです。このようなささげ物をイエスは祝福なさいます。

新生姜の炊き込みご飯

〔材料〕

- ・ 胚芽米 3 合
- ・ 新生姜 100 グラム
- ・ 油揚げ（細切り） 1 枚
- ・ 塩 小さじ 1
- ・ 昆布粉末だし 小さじ 1

〔作り方〕

1. 新生姜を細かく刻みます。（みじん切りよりも、むしろできるだけ細く切れば、多少長さがあってもなじみがよくなります）
 2. 油揚げを油抜きします。
 3. すべての材料を炊飯器に入れて炊きます。
- 炊き上がったら、ふっくら混ぜて出来上がり。

新生姜の量はお好みで調節してください。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第6話 博士たちの訪問(下)

天使たちがベツレヘムの羊飼いたちを訪れたその夜、博士たちは空にある不思議な光に気がつきました。それは天使の群れを囲んでいた栄光でした。

この光が薄れて消えたとき、彼らは空に新しい星のようなものを見ていました。すぐに彼らは次の預言を思いました。「ヤコブから一つの星が出、イスラエルから一本のつえが起り」(民数記 24:17)。この星はメシヤが来られたというしるしなのでしょう？彼らはその後について行き、それが自分たちをどこへ導くか見てみることにしました。それは彼らをユダヤへと導いていきました。しかし、彼らがエルサレムに近づいたとき、星があまりにもかすんで、ついて行くことができなくなりました。

ユダヤ人がすぐに自分たちを救い主のところへ案内してくれるだろうと思い、博士たちはエルサレムに入って行って言いました。「『ユダヤ人の王としてお生れになったかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拝みにきました』。

ヘロデ王はこのことを聞いて不安を感じた。エルサレムの人々もみな、同様であった。そこで王は祭司長たちと民の律法学者たちとを全部集めて、キリストはどこに生れるのかと、彼らに問いただした。彼らは王に言った『それはユダヤの



ベツレヘムです。預言者がこうしています』(マタイ 2:2-5)。

ヘロデは、いつか自分の王座をうばうであろう王のことを聞きたくはありませんでした。

(43 ページに続く)